

海外研修

～ミクロネシア連邦の島々と日本との比較～

坂口 建（理工学研究科）

各島の概要

ウェノ島

ミクロネシア連邦のチューク州に位置するチューク環礁の主島である。チュークは「トラック諸島」として知られていたが、1989年の州憲法の制定で変更された。ウェノ島はチューク州都で、面積 18 km²、環礁内で 2 番目に大きい島。島の中央には海拔 369 m のトノケン山があり、市街地の背後には海拔 229 m のトナチャウ山がある。集落は海岸線沿いにあり、島の西側には政府のオフィスや銀行、ホテル、空港などがある。

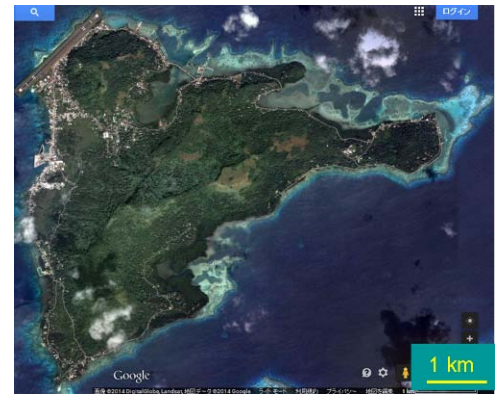


図 1. ウェノ島 (Google マップより)

ピス島

ウェノ島の北東部に位置する島で、チューク環礁の真上にある。ウェノ島市街地より小型ボートで 1 時間かかって行く。ココナッツを取ったり、漁に出て魚を獲ったり、島民は今も自然とともに伝統的な生活を送っている。言語はチューク語が主で、一部の人は英語も話せる。



図 2. ピス島 (Google マップより)

グアム島

マリアナ諸島の南端の島。スペインの植民地であったが、1898年からアメリカ領に、1941年から 1944年まで日本が占領し、それ以降はアメリカ領である。先住民はチャモロ族といい、公用語は英語、チャモロ語だが、日本からの観光客が多いことから日本語も使われている。島内にあるグアム大学には、ミクロネシア各地からグアムに学生・生徒が集まる。

研修日程

- 1 日目 9 月 6 日 決起集会 in 福岡
- 2 日目 9 月 7 日 移動 (福岡→グアム→ウェノ、飛行機)、ウェノ島宿泊
- 3 日目 9 月 8 日 ウェノ島市場見学、移動 (ウェノ→ピス、ボート)、ピス宿泊
- 4 日目 9 月 9 日 エヴァリット (無人島) で食糧確保、ピス島宿泊
- 5 日目 9 月 10 日 移動 (ピス→ウェノ、ボート)、ウェノ島宿泊
- 6 日目 9 月 11 日 ウェノ島北部散策、移動 (ウェノ→グアム、飛行機)、グアム宿泊
- 7 日目 9 月 12 日 グアム島内見学 (大聖堂、グアム大学、車で)、グアム宿泊
- 8 日目 9 月 13 日 移動 (グアム→福岡、飛行機)、解散

研修内容

ウェノ島内の市場の見学では、そこで売られている果実や野菜を見た。熱帯性の瓜やバナナなどが多かった。また、ホテル近くのスーパーマーケットに行き、商品や製品を見た。そこで売られているものの大半が輸入品だった。またウェノ島は道路の舗装が進んでいない島で、宿泊先の道中は水たまりの多いでこぼこ道だった（図 3）。実際に、車に乗ってみたが、速さも 10 km/h 以内でしか走れなかった。ウェノ島の島民は道路を舗装する必要性を感じていないため、このような状態のままらしい。



図 3. ウェノ島の市場と道路

ピス島に到着してまず、ココナッツジュースを試飲した。あまり甘くなかった。現地の方はヤシの木の幹を交互にナイフで削った箇所を足を置き、器用に登っていた。そして、獲ったヤシの実が割れないように、回転させながら下に落としていた。その後島内を一周して集落を見学した。飲料水には地下水を使わず雨水でまかない、タンクに貯蔵していた。ピス島では風呂はなく、井戸水で水を浴びて済ませていた。夜は真っ暗になり、犬が放されている集落もあるので、現地の方ぬきで夜道を歩けなかった。次に私たちは宿泊した集落が持っている無人島へ食材をとりに行った。無人島（エヴァリット）では、海で貝を獲ったり、森に入ってヤシガニやオカガニを獲ったりした。海では、現地の方がシャコガイを獲るのを見学した。獲り方としてシャコガイが開いている時にスピアをぶっ刺し、穴から取り出していた。しかし、一旦殻が閉じてしまうと採れなくなってしまうので、取るのは難しいそうだった。シャコガイが取れたら貝柱を切って、内臓を出し、身だけを回収していた。また現地の言葉では、シャコガイをト、マガキガイをニファレス、スイジガイはネアン、その小さい個体をネアと言っていた。無人島からピス島に帰って来ると、犬料理の調理が始まった。まず、犬の首に鎖をつけて、木に吊るし、頸椎部を棒で叩き、殺していた。そして、トタンをひいて犬を置き、毛を抜くためにヤシの葉を乗せて火で炙っていた。その間に犬を調理するために穴を掘っていた。海で内臓を取り出して解体した犬の肉を、穴の中に敷き詰めた熱した石の上に置き、上にバナナやイモ類の葉を乗せ、土を被せて 1~2 時間蒸して作っていた。味は脂っぽくて臭み



図 4. ヤシの実を獲る様子



図 5. 犬の調理（毛を抜くために焼いている）

もあったが、普通の肉だった。ピス島では、犬、猫、鶏、豚を飼育していた。犬、鶏、豚は家畜として飼っていたが、猫は食べないらしい。また、犬は番犬としての役割もあるという話を聞いた。日本では犬を食さないため、抵抗があったがピス島や韓国、朝鮮では食べるらしい。日本の島の中で壱岐島、対馬島では朝鮮通信使をもてなすために過去食べていたという記録があった。

グアム島では南部を周り、島内の自然や文化を学んだ。中心街には日本語やハングルの看板が多く、すれ違う観光客の大半が日本人だった。しかし、中心街を離れると英語かチャモロ語しか通じなかった。グアム大学では、現地で働いている方にグアムの話をお聞きした。グアムではチャモロという先住民族が就職に有利だという。またグアムの方は時間にルーズで20~30分遅刻は当たり前でDon't worry, be happy!で沖縄と同じ考え方らしい。グアムは子どもが多いので、簡単に先生職に就けるという。そしてアメリカ、グアムの教育は、先生によって使う教科書が違うので、教育の差が出やすいということを知った。

全体を通して感じたこと

今回が初めての海外だったということもあり、道中緊張気味だった。道順は、ピス→ウェノ→グアムだったので、最初から言語が通じなかったからというものもあったのかもしれない。そのおかげか、言語の通じないなかで自分のしたいことを伝える手段や方法を学べた。言語の壁に臆せず、通じないなりにジェスチャーや愛想よくするなどの態度をとることで、現地の方に受け入れられることを知った。今回の海外研修をきっかけに、自分でもこれから積極的に日本を出て、違った文化や言語に触れ合い学んでいこうと思った。最後に、今回のミクロネシア研修の手続きや引率をしてくださった先生方に感謝申し上げます。とても貴重な経験ができました。本当にありがとうございました。



ピス島の方々と記念写真

付録 -ミクロネシアの生き物（水生生物を中心に） -
ウェノ島にて(波止場、ホテル)



図 6. マツバガイの一種
ピス島にて



図 7. シオマネキの一種
(ヒメシオマネキ?)



図 8. ヤモリの一種



図 9. アオウミガメ



図 10. クラゲの一種



図 11. オカヤドカリの一種



図 12. オウギガニ科 sp



図 13. カニダマシ科 sp



図 14. ゴカイ科 sp

無人島(エヴァリット)にて



図 15. ショコガイの一種



図 16. クモヒトデの一種



図 17. カイメンの一種



図 18. ナマコの一種



図 19. ハタの一種



図 20. クサビライシの一種